

⑥ 第6委員会

「安全で安心してくらすことができるまちづくり」



第6委員会のテーマは、「安全で安心してくらすことができるまちづくり」です。このテーマについて考えるために、^{わたし}私たちは、7月25日、名古屋高速道路公社の施設見学^{しせつ}を行いました。

そこで、^{わたし}私たちは道路パトロールカーやモバイルマッピングシステムの車と、交通^{かんせい}管制室のグラフィックパネルと、安心して高速道路を利用できる工夫を見ました。

そして、^{じこ}事故や^{たいおう}じゅうたいが起きてもスムーズに対応して安心・安全に備えられていることがわかりました。

その後、^{わたし}私たちは施設^{しせつ}見学をしてわかったことや思ったことをもとに、名古屋を「安全で安心してくらすことができるまち」にするためには何をすればいいか考えました。

それでは、^{わたし}私たちが考えたことを順番に発表します。

○子ども議員

ぼくは、名古屋を「安全で安心してくらすことができるまち」にするために、道で危ないなと思ったところを市などに簡単に通報できるアプリを提案したいと思います。

例えば、横断歩道の線がうすくなっていたり、道路標識が木でかかれていたり、ガードレールがこわれていたり、点字ブロックがはがれているなどを見つけたとき、知らせることができます。いち早く異変に気づけて事故を防ぐことができるかもしれません。このアプリがあれば、まちのみんなでまちの安全を守ることができると思います。

○子ども議員

ぼくは、事故がなくなるために、車やバイクなどを運転する人に呼びかけることが大切だと思いました。

また、ごみを高速道路に捨てる人を少なくするために、また呼びかけることが大切だと思いました。

○子ども議員

名古屋高速道路公社の交通^{かんせい}管制室は、交通管理をして、じゅうたいや事故^{じこ}が起こっても次の事故^{じこ}が起こらないようにするために、スムーズ^{たいおう}に対応し、24時間365日ずっと見守ってくれると思いました。

運転する人が思いやりの気持ちを持って運転をしたほうが、「安全で安心してくらせるまちづくり」ができるようになると思います。

○子ども議員

もし高速道路がなかったら、食べ物をほかの県に送ったり、行きたい場所に行けなかったりすることがあります。でも、高速道路があるおかげで、1時間で愛知県の外へ行けたり、県内でも短時間で行くことを知り、ぼくはこの高速道路はとてもよい働きをしていると思いました。

名古屋高速道路公社の方の話を聞いたり、見学して、ぼくたちの生活には絶対^{ぜったい}に必要なだと思いました。また、ここで働いている方々、特に整備^{せいび}をする人の仕事は大変重要だと思いました。

○子ども議員

愛知県では、500万台の車があり、その中の約30万台が名古屋高速を走っています。1日に30万台の車が走るわけなので、当然事故の危険があります。それを守っているのが、私たち第6委員会が行った名古屋高速道路公社です。その中にある交通管制室は、365日24時間体制で私たちを見守ってくれています。また、事故があると、すぐにパトロールカーが助けに来てくれます。この人たちのおかげで、私たちは車に安全で安心に乗れているのです。

私は、名古屋を安心・安全にらせるまちにするために、この取り組みを道路にも広げていきたいと思いました。

○子ども議員

事故が起きても非常電話というものがあるので、すぐに交通管制センターにつながるのがすごいと思います。しかも、防音仕様がされているのおかげで話がしやすいというところも印象に残りました。

そして、交通管制センターは24時間365日働いています。なので、いつ事故が起きても安心して暮らせるということがすごいと思います。そして、クッションドラムのおかげでしょうげきを最大限に減らし、けがなどをする確率が大幅に減ります。そして、車同士がぶつかって火災が起きたとしても、専用の消防車が来てくれるので、すぐに火を消せることができます。

これらは全て高速道路と交通管制センターが24時間365日働いてくれているおかげだと思いました。

○子ども議員

名古屋高速道路公社の交通^{かんせい}管制室には、グラフィックパネルに名古屋高速のじゅうたいや事故^{じこ}の様子が色分け^{えいぞう}や映像でわかりやすく表示^じされていました。

私^{わたし}たちの車のナビは、じゅうたいの情^{じょう}報^{ほう}を教えてくださいますが、出かける前に道^{じょう}路^ろ状^{じょう}き^{ょう}がわかるといいと考えました。

そこで、私^{わたし}は、グラフィックパネルの情^{じょう}報^{ほう}をケーブルテレビで放送できるといいと思いました。

そうすれば、出かける前に道^{じこ}を変^{じこ}こうでき、じゅうたいや事故^{じこ}に巻きこまれずに安全に安心して目的地に着くことができると思います。

○子ども議員

ぼくは、事故^{じこ}の一番の原因は、スピードの出し過^すぎだと思^{おも}います。車のレースを見ていると、車^{じこ}が事故^{じこ}を起こすとペースカーが車の前に入^いってゆっくり走^まらせます。それと同じように、高速道路のカメラで速く走^まっている車^{じこ}があったら、個別^{けいこく}に警^{けい}告^{こく}をして、それでもスピードを落とさなかった場合は、その車の前^{まへ}にペースカーを走^まらせて強^{きょう}制^{せい}的にスピードを落とさせればいいと思^{おも}います。

そうすれば、スピードを出^すし過^すぎている人がいても、ペースカーを使^{つか}っておさえられるので、事^じ故^こが減^へり、「安全で安心してくらすことができるまち」に近づくと思^{おも}います。

○子ども議員

ぼくが施設見学で学んだ中で最も印象に残ったものは、ドライバーを守ることができるクッションドラムです。

もし事故が起こっても、クッションドラムがあれば、事故のしゅうげきで飛んできた人がコンクリートに直接当たらなくて済みま^{じこ}す。そして、ドライバーたちが大けがをすることなく、命が助かる確^{かくりつ}率が何倍にも上がります。

事故が起こらないのが一番ですが、「安全で安心してくらすことができるまち」にするためには、このクッションドラムは欠かせないなと思いました。

○子ども議員

ぼくは、道路パトロールカーでも警察のパトカーみたいに厳しく取りしまりができるようにしたらいいと考えました。今の道路パトロールカーは、重量ちょう^か過などの注意はできますが、あおり運転や速度オーバーなどは注意することができません。

そこで、警察のパトカーみたいに違反車を追いかけて注意できるようにしたら、運転手は安全運転を心がけるようになるし、事故を減らすことができると思います。

○子ども議員

わたしは、高速道路の整備がとても大事だと思いました。なぜなら、高速道路のメンテナンスなどをしないと、コンクリートが傷み、悪くなって危険になってしまい、高速道路を利用する人が安心・安全に高速道路を利用できなくなってしまうので、日々のメンテナンス、悪いところを直す工事が必要です。

その工事を日々欠かさずしてくれる人がいるから、私たちは高速道路を安心・安全に利用できるんだと思いました。

○子ども議員

わたしは、交通管制室のグラフィックパネルに興味を持ちました。

グラフィックパネルは、異常が起きると緑、しゅ、赤の3段階に分けられていたり、びっくりマークなどのマークで分けられているので、事故が起きてもすぐに対応できるように24時間365日動いていてすごいなと思いました。

わたし

私たち第6委員会は、このようなことが名古屋を「安全で安心して
てくらすことができるまち」にするために必要だと考えました。

これで、第6委員会の発表を終わります。

■ 沢田都市消防委員長の答弁

第6委員会のみなさん、大変3日間という
限られた時間の中で、「安全で安心してく
らすことができるまちづくり」ということをテ
ーマに、施設見学や話し合いを通してみなさ
んの提案や意見をうまくまとめることができ
ました。本当にお疲れさまでした。施設見学
に行きました名古屋高速道路公社は、そこで
は高速道路の構造や設備、また管制室やそこ
で働く車などを見学することができ、またパ
トロールカーには実際乗ることもできましたし、管制室では事故の
処理に当たる姿も見ることができました。



名古屋高速は、先ほどの意見発表にもありました1日30万台以上
の車が利用しております。高速道路があるおかげで、人々の生活や
仕事に大きくこうけんしているという反面、一つ間ちがえれば重大
な事故により命を落としてしまいかねないという、こういう危険性
の両面を持った大事な大事な社会の基盤であるというふうに考え
ております。

みんなは、こうした高速道路が持つ機能、それからそこで働く人
たちの責任をしっかりと理解して、子ども委員長、子ども副委員長を

中心に、的確に提案をまとめることができました。特に、一人一人の意見発表の中では、安全で安心して高速道路が利用できるため、ふだんは目立たないけれどもかけで命がけで働いている人や物に光を当てることができ、感謝の言葉を、気持ちをあらわすことができました。

また、未然に事故や違反を防ぐ具体的な提案や、利用者をふやすアイデアまでひろうしていただくことができました。理解するまで何度も質問をしてくださったり、またみんなを助けるような提案や質問をしてくださいました。そんな姿を見て、大人議員である我々も大変に勉強になりました。ありがとうございました。

そんなみなさんだからこそ、第6委員会の議事がスムーズに進行するようにかげで見えないところで準備をしてくださった市会事務局の山田さん、川北さん、竹内さん、そして教育委員会の柴山先生への感謝の気持ちを忘れないでいただきたいと思います。

最後になりましたけれども、議事進行にご協力をいただきました吉田副委員長、そして大村副委員長に感謝を申し上げまして、私の答弁とさせていただきます。お疲れさまでした。

